

日本の展望委員会・基礎科学の長期展望分科会（第一回）議事要旨

日時： 2008年9月16日（火）10：00～12：20

会場： 日本学術会議本部 5-C 会議室

出席委員： 家 泰弘、池田駿介、海部宣男、北澤宏一、平 朝彦、玉尾皓平、
谷口維紹、長谷川壽一

欠席委員： 野家啓一、浅島 誠、黒岩常祥、長田重一

配布資料：

資料1 「日本の展望－学術からの提言（仮題）」についての考え方

資料2 日本の展望委員会テーマ別検討分科会で取り上げるテーマの説明

資料3 日本の展望委員会 今後の進め方等について（案）

資料4 委員名簿

参考1 日本の展望委員会運営要領

参考2 日本の展望委員会委員名簿

参考3 学術月報（2008.3）

【議事】

1) 委員長、副委員長、幹事の選出

委員12名に対し出席委員8名で、分科会は成立した。

互選により、海部委員を委員長に選出した。

海部委員長より谷口委員が副委員長に指名され、了承された。

幹事（2名）については、委員長・副委員長で相談の上、メールにて委員に諮ることとした。

2) 『日本の展望』の全体的な進め方について

配布資料1～4に基づき、海部委員長より『日本の展望---学術からの提言』の計画の検討経過と基本構想、組織、および第一回日本の展望委員会において検討された作業とスケジュールの考え方等について説明され、第四期科学技術基本計画への重要事項反映には早期の課題の提起が重要であること、作業分科会などとの連携等について意見交換が行われた。

3) 本分科会における検討の課題と進め方について

表記について、自由な意見交換を行い、検討課題に関連して多くの意見が述べられた。その結果、当面の検討では、視点・タイムスケールが異なる以下3つの課題を取り上げてゆくことになった。

(海部注記：議論でもあったように「科学技術」、「科学・技術」、「学術」、「基礎科学」等の用語は必ずしも明確に定義されていません。本分科会としては当面「基礎科学」と「学術」を厳密には区別しないで使い、まとめの段階で用語の整理を行うことをご了承いただければと思います)

課題(1) 現代社会における学術研究

学術研究の推進は、果たして国民の総意と考えてよいだろうか？ 社会状況の変化の中で、科学と技術、そして学術研究の役割も変化している。国としてのリソース配分の考え方とその世界的動向、ゆとりの増大、若者にどう夢を与えるかなどを具体的データに基づいて考慮しつつ、現代社会における学術研究の位置づけと意義を整理しなおす。本分科会のみならず「日本の展望」全体の議論にも役立つ、基本的課題であろう。

課題(2) 基礎科学研究が当面する課題と基盤の強化

運営費交付金など大学がおかれた状況、重点化や COE などによる政策誘導と集中化、基礎的研究基盤の劣化、若手・人材育成の問題、国際貢献のあり方など、現在日本の基礎科学で起きている多くの深刻な状況をどう打開し、また第四期科学技術基本計画などに何を反映させてゆくか。これが本分科会での検討の中心となろう。第 19 期の『日本の計画』や、今期までに公表された多くの対外報告・提言を踏まえ、その成果を十分に活かして、具体的で総合的な検討を進める。

課題(3) 長期展望としての「学術基本法」

日本の基礎科学・学術研究の体制を強化・構築する長期的視点として、「学術基本法」の可能性について検討する（参考資料 3：『学術月報』2008 年 3 月号、p.162、石井紫郎「学術基本法の制定を目指して」）。科学技術基本法と相補的な学術基本法を制定しそれに基づく学術基本計画を学術会議が担うことで、総合科学技術会議と連携する真の「車の両輪」としての学術会議の役割を果たすことを模索する。全体的課題でもあろう。

そのほか、適宜ジャーナリストや行政なども含めて外部の意見をお聞きする機会も設けること、出来る限り説得的なデータに基づいて検討すること、などが提起された。

4) 次回の分科会について

第二回分科会は、10 月 21 日(火)9 時から開催する(13 時 30 分頃終了予定)。検討は、以下の 3 課題について行う。

課題(1) 社会における学術研究：

北澤委員から報告をいただいた上、議論する。

課題(2) 基礎科学研究が当面する課題と基盤の強化

これまでの関連する『計画』、対外報告、提言等について、各関連委員より概略を報告いただいた上、更なる具体化の検討を行う。

資料・説明担当委員については、メールにて連絡する。

課題(3) 長期展望としての「学術基本法」

上記『学術月報』の石井提案等に基づいて議論を行う。

(以上)